

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念のもと、その方らしい暮らしを支えていけるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に運営理念が書かれているものが目の届くところに貼っており、日頃から理念に添えるように職員間の話し合いがもたれている。また定期の会議には意識の共有と確認のため音読を行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用案内の説明文書を見やすいところに明示しており、必要に応じて家族等に説明している。地域の方には運営推進会議の際にお話ししている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち入っていただけるような玄関周りの工夫や散歩時のあいさつなど日常的なつきあいがもてるよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りの参加や学校の運動会を見に伺うなど交流に努めている。また、行事の際には地域の公民館や学校から物品をお借りするなど助けていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が立ち寄りやすい雰囲気作りに努め、近隣にお住まいの方の相談に応じられる体制となっている。また運営推進会議等により近隣の方に役立つことがないかの話し合いがもたれている。		積極的に近隣の方との交流が行えるように行事へ参加の呼びかけなどから行い、地域の高齢者等の暮らしに役立つような話し合いを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価および外部評価を実施する意義を理解し、ユニットの毎月の目標を自己評価をもとに掲げ改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において地域の方やご家族様、入居者様のご意見をいただき、話し合うことでサービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折にふれ市や区の担当者との連携を心掛け、課題解決を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修を実施し制度の理解を図っている。また、制度の活用が必要と感じられる時は関係者との十分な話し合いの上で適切な支援が実現できるよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、職員は虐待について学び、理解することで防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に十分に説明を行い、利用者様やご家族様の疑問の解消を行っている。また入居後も随時、質問を受けられるようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置やホームの他にも第三者的に苦情を言える機関を設けている。また意見、不満、苦情から改善できることに取り組んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は支払明細書等で定期的に報告がなされており、随時出納長の開示が行われている。ご家族様の面会時はもちろん、月1度定期的におたよりをお送りし近況の報告や相談を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置やホームの他にも第三者的に苦情を言える機関を設けている。また意見、不満、苦情から改善できることに取り組んでいる。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニットごとに月に1度会議を行い、業務の見直しや職員の意見がきける体制がとられている。また日々の業務内においても随時話し合いがなされてる。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整への対応が柔軟に行われてる。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を必要最小限に抑える努力がされており、職員の異動の際も情報の引き継ぎ等を行いサービスの質が落ちることのないよう入居者様への配慮が行われている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルは作成しており、常に手に取れるまたは目の届くところに配置している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	新入社員研修や管理者の研修など、本社で計画的に研修が行われている。また、ホーム内外の研修、他施設での研修にも参加している。研修内容は書面での報告のほか、ユニット会議でも報告し、他職員に伝達している。	ユニットリーダーが各職員の短期的目標を決め目標を達成しレベルアップができるよう一緒に取り組んでいる。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を通して他ホームとの意見交換や交流の機会が設けられており、今後は勉強会を通じてサービスの向上への取り組みも行いたいと考えている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	できるだけ悩みを聞く体制にある。食事会などを通じて、スタッフ相互の親睦を深めると共にストレスの解消に努めている。	社会的取り組みとして「心の相談窓口」が開設されている
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の実績の評価を定期的に行い、向上心を持って働ける環境になっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との話し合いの時間を多くもち、普段の会話の中からも不安や希望が把握できるよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までご家族様によくご理解いただけるように時間や機会を設け、話し合いが行われている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	ご家族様との相談を通じ一緒に必要な支援について考え、対応に努めている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ご本人様のペースに合わせ、徐々に雰囲気慣れていただけるようご家族様にも協力していただき、支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	得意な分野での活躍の場を作り、一緒に作業を行うことで支えあう関係作りに努めている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	行事の参加等を通じてご家族様と交流を図ろうと努力している。またケアプランなどの説明から、ご家族様と協力して援助の方向性を決めている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	ご家族様との良い関係作りを支援していけるよう面会時の時間を大切にしたり、行事への参加に声をかけたりしている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	馴染みの人にはいつでも面会に来ていただけるような環境作りを行っている。また馴染みの場所に行けるよう努めている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	利用者同士の性格や関係を把握し、よりよく関係が円滑となるように日々努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も助言や働きかけを断ち切ることなく、継続的な関わり合いを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に十分話しを行い、また普段の何気ない会話からも本人の意向につながるものを見つけようと努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族様から今までの生活歴や日中の過ごし方をお聞きし、趣味をいかしていただいたり、馴染みの場所に行くなど努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人おひとりの個性を大切にし、身体面での運動機能の維持・向上をご本人様と話し合いながら日常の生活の中で取り入れていけるようにしている。また残存機能を十分に活用していただけるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様からの意向は常に取り入れさせていただき、また医療機関などの意見の反映をふまえ、ユニット全職員の話し合いのもと、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間の終了や状態の変化に合わせアセスメントを再度行っている。また、介護計画に関しては毎日チェックしており、1ヵ月事のモニタリングも行って見直しが行なわれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはその時々のお話、表情、行動など詳しく記録することとされている。またそこから読み取れることをユニット内で共有し介護計画や日々の対応に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々のお話に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族様の要望に応じて柔軟な対応で支援ができるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の機関との関わり合いを大切にし、ホームのことを理解していただき協力を得て支援に努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人やご家族様の意向は最大限に聞ける体制をとり、地域のケアマネジャーとも話し合い支援に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて入居者様のより良い支援につながるよう話し合いがもたれている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の付き添いが可能で希望があれば、今までと同じ医療機関を受診して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の際、入居者様の話やこちらのお話を聞き対処方法や指示、助言を丁寧にしてくださる医師がいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員との情報の共有により、看護職員からの助言や指導をいただき健康管理に努めている。また受診の際には病院看護師に相談できている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症ということもあり、入院生活が長引くと機能低下等を招きやすいので早期退院に向け医療機関との連携に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについてできるだけ早い段階からご家族様やご本人様の意向を聞き、受診の状況や近況を逐一報告、話し合うことで方針を共有し支援に努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様、医療機関、看護師、厨房と連携をもち、重度や終末期の入居者様もより良く日々暮らしていただけるよう支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅で使用していただいていた家具をホームで使っていただけるようご家族様にお話し、使いやすいものの中で住み替えによるダメージの軽減を図っている。また、ご家族様に1日の家での様子や趣味を伺い支援に役立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等の個人情報の取り扱いや使用時には日々十分配慮している。入居者様にも自尊心を損ねるような対応を行わないよう心がけている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選択肢をもって入居者様が決定を行なえる場面が多くもてるよう心掛けている。また外出の希望などはなるべく実現できるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日を同じ日課で過ごすのではなく、入居者様のその日の体調や気分に合わせて支援できるよう心がけている。また天候の良い日には散歩を行ったりと環境の変化にも対応できるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみがきちんとしているかは、起床時に確認している。おしゃれについては入居者様が持っているものの中で工夫し配慮している。散髪については本人の希望をスタッフが聞くなど対応している。パーマやカラーなどの希望にも添えるような体勢が整っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様一人ひとりのその日の状態に合った調理方法にしたり、苦手な献立があれば違うものを提供するなどの対応をおこなっている。見た目でも楽しめるような盛り付けをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やたばこを嗜まれる方は現在いないが、入居者様によっては飴等の嗜好品を居室で楽しめるように支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは一人ひとり違うので、しっかりと把握し、現状維持はもとより向上を念頭に取り組んでいる。また定期的に見直しや話し合いがもたれ、より良い支援に努めている。個々の排泄状況や排泄パターンを把握した上で、時間帯や状況に応じて使い分けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望については、毎日入居者様に確認している。入浴が苦手な方についても2日に1回は入っていただけるよう、支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息や安眠に向けての援助を生活習慣の違いも考慮に入れ個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人様の得意分野を中心に役割を持っていただき、日々の生きがいにつながるように支援している。また楽しみごと個別に把握し、気分転換していただける機会を設けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はすべて事務で管理している。(なかなかご本人が管理する事は難しい。)管理できない場合でも、ご本人が持っていたいという時は、御家族に理解を求めた上で小額を持って頂いている場合もある。		ご本人様が持たれているお金から買い物ができるように支援している。また、管理しているお金もレジでの清算の際に支払っていただけるように支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の希望から散歩や買い物、ドライブを日常的に支援している。また天候によるが草取りや洗濯干しも日常的に行われている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣の希望の場所には行けているが、遠方の場所には出かける機会が設けられていない。		今後、ご家族様と相談させていただき、出かける機会が持てるようになれば良いと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙がきたらお返事を書かれている方もいるし、また自力で出来ない方でも支援を勧めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室が居心地の良い状態となるよう努め、本人や馴染みの方が過ごしやすい環境作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての正しい知識を持っており、身体拘束は行われていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット入口の扉は開錠されており普段から行き来ができるようになっている。全ての職員が鍵をかけることへの弊害を理解しているが玄関には常に鍵がかかっている。		外出要求が強い入居者様が、どうしても1人で出てしまう為難しいところである。御家族にはお話し、了承を得ている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にユニットの入居者様の所在を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	軟膏や湿布、点眼等の管理ができる方に関しては居室での管理をン行っていたり、職員が定期的な観察をおこなっている。個別の残存能力に応じて対応ができています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書などを用い他のユニットの事故事例も共有し、入居者個々の状況に応じた事故の防止に努め、対策を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、看護師の勉強会や指導にて急変時や事故発生時の対応がなされている。また事故発生時には対応を含め職員が情報を共有することで今後の対応に活かしている。		今後も定期的な会議で、スタッフ全員が熟知できるよう働きかけ、また、スタッフ同士でも確認しあっている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者様の個別の対応をふまえ、定期的な避難訓練を行っている。また職員は通報訓練も行い、非常時も対応できるよう努めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居の際に十分な説明が行われており、生活する中で生まれた問題もご家族様を交えて対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや看護師の訪問など早期の体調の異変に気づけるようにしている。また得た情報は職員間で共有し、対応を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服薬について職員は理解し、内服していただく際も個別の支援を行っている。また、誤薬のないよう、数人の職員で確認しあいながら行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、日常生活を見直し、散歩やユニット内歩行等生活内で出来る運動や食事から便秘の予防や解消を働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の口腔内(義歯、残存歯等)の状況に応じた対応を行っている。またその方のできることは行っていただき、残存機能をいかにさせるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人にあった食事形態や量で食事が提供できている。また、水分の自己摂取が少ない方は1日取っていただきたい水分量を確保できるように支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、医師や管理者から指導も受けている。また季節的に流行るインフルエンザやノロウイルスの時期には特に職員の意識を高めるよう会議等での確認や消毒の徹底が行われている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所は定期的に消毒を行い、衛生管理に努めている。食材も新鮮で安全なものが提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには障害物となるようなものは置かないようにしている。プランターや花壇に花を植え明るい雰囲気作りをおこなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には入居者様が作られた手作業の作品を置き、飾っている。また季節感のあるものをとり入れている。またトイレには消臭剤が置かれていたり、居室等も換気を行ったりと配慮を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて、くつろげるスペースを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人の使用していたものを多く持ってきていただくことで、居心地の良い空間になるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暖かい日には窓を開け、寒い日でも1日に2回は換気する様心掛けています。また、冷暖房の温度などは入居者様の意見を聞いて行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やキッチンの台を低めにしたりと安全かつ、使いやすい空間になっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗のない自立した生活になるよう、環境作りに配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周囲やベランダに花を植えることで鑑賞や世話を楽しめるようにしている。また、畑を作り収穫したものをおやつにしたりと活動と楽しみが共有できる空間になっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者様の意向を常にお聞きし、ご家族様とのこまめな話し合いから、その方らしいケアプラン作りに努めている。また毎日実践できるような取り組みがなされている。
- ・入居者様の排泄や食事、行動等の状況変化に対し、柔軟な対応が日常的に行なえている。
- ・ユニットの枠を超えて親しい入居者様間の交流がもてるようなクラブ活動がおこなわれている。